

# 豊玉小の教育

練馬区立豊玉小学校長 並 木 満 行

## I めざす学校

1. 教育目標「考える子 ねばり強い子 心ゆたかな子」

2. 経営のめざす方向

『児童にとって今日が楽しく、明日が楽しみにできる学校づくり』

(1)生涯学習の基礎づくりをめざして

- ①自らを高めようとする意欲と、それを支える体づくり。
- ②『人間味あふれる教育』『自ら責任をとらせ義務を果たさせる教育』の実践。
- ③社会生活に必要なマナーやルールを学ばせ、互いを尊重し思いやる心を育成する。

(2)信頼関係を強める

- ①児童・保護者・地域の信頼関係を強めるために、「子どもを知る」努力を行う。
- ②児童の意欲を高めるために、失敗を恐れさせず安心感のある環境づくりを行う。

(3)期待する児童像

- 「考える子」 → 人の話をよく聞き自分の考えを発表できる子  
基礎基本が定着している子
- 「ねばり強い子」 → 基本的な生活習慣が身についている子  
集中力があり最後までやりぬく子
- 「心ゆたかな子」 → みんなと仲よく協力する子 あいさつができるルールを守る子  
相手の立場を考え互いの違いを認め合える子

(4)期待する教師像

- 児童のよさや可能性、能力を引き出し高められる
- 児童と焦らず接する
- 児童を多面的にとらえ、素直に見つめられる
- 児童に関心と期待をもつ

3 経営の基本方針

- (1)判断基準 「児童のためになっているか」
- (2)指導するための基本姿勢 「がまん」「命を大切に」
- (3)学校経営の評価 「児童の姿」をとおして示す

## II 経営方針達成に向けての方策

1 外に開かれた学校づくり

(1)児童の安全確保に向け「安心できる学校」とする

- ①全教職員で事故の未然防止に努め、児童の安全確保をする。
- ②災害や事故発生時の迅速・的確な対応を全職員がよく理解し、行動する。

(2)教育活動を外に公開し、「地域が誇りとする学校」にする

- ①地域の人材を生かした授業や、学校公開の機会を増やし教育活動の活性化を図る。
- ②地域を教材化すると共に地域行事に積極的に参加する。
- ③家庭や外部の教育関係諸機関と連携して取り組む。

2 内に開かれた学校づくり

(1)児童の学習意欲を高められる学校にする

- ①児童理解を深め、学習指導・生活指導の充実を図る。
- ②児童の悩みの解消、児童理解の深化のために、学年での話し合いを深める。

(2)創意工夫のある教育活動を展開できる学校にする

- ①課題解決力、コミュニケーション能力を高める
- ②各学年での合同授業、交換授業等を工夫し、指導力と協力体制の強化を図る。

3 共に学ぶ素晴らしさを実感できる学校づくり

(1)学習の基礎・基本を身につけさせるための工夫と課題達成の支援をする。

- (2)学習の目的や課題を明確にもたせ、その達成をめざした学習ができるようにする。
- (3)問題解決的な学習を重視し、児童が考え判断し表現することを十分に経験させる。
- (4)自分の考えを発表し認め合える授業を工夫し、児童を多面的から見るようにする。
- (5)基本的な生活習慣の確立、自主的・自律的に行動する態度の育成を図る。

### Ⅲ 今年度の取り組み目標と方策

- 1 学力向上をめざした授業改善（学習指導）
  - (1) 児童が楽しく学べる学習の工夫と対応ができるように工夫する。
    - ① 授業の充実をめざし、児童にとって楽しい学習、学び合いのある学習を目標にする。
    - ② 教室環境、学習環境の整備に力を入れ、環境から児童のやる気を育成する。
  - (2) 基礎基本の定着を図れる学習の場を充実させる。
    - ① 朝学習を週3日実施し、繰り返し学習の場を確保して児童の学習意欲の持続を図る。
    - ② 夏季休業中の学力補充教室を学年3日以上実施して学習に対する意欲の向上を図る。
- 2 地域や外部の意見を取り入れた学校運営の推進（学校経営）
  - (1) 保護者、地域の方が学校に対して協力しやすい雰囲気をつくる。
    - ① 年3回の学校公開を工夫して多くの保護者、地域の方からに参観していただく。
    - ② 保護者会に多くの方々が参加できるように工夫させる。
  - (3) 地域の人材を生かした教育活動を工夫し、地域の方々から協力が得られるようにする。
- 3 教職員の指導力の向上を図る（組織の活性化）
  - (1) 「自分のめあてをもち主体的に学習する児童の育成」に向け道徳で研究に取り組む。
    - ① 道徳の時間に道徳的価値を学ばせ、実践できる場を工夫する。
    - ② 体験活動をとおして、道徳的な心情、判断力、実践力を育成する。
    - ③ 年間18回以上の研究授業を実践する。
  - (2) 児童が安心して通える学校づくりに取り組む。
    - ① 管理職への報告、連絡、相談を徹底させる。
    - ② 相談しやすい教師の育成をめざし、児童の声に耳を傾けられる機会を多く設定する。

### Ⅳ 経営計画の具現化をめざした具体的な方策

1. 教育目標の具現化をめざして（重点目標：心ゆたかな子）
  - (1) 道徳を窓口としての研究の充実とこれまでの研究成果を継承していく。
    - ① 道徳の時間の工夫をとおして心の教育の充実をめざす。
    - ② 公德心、愛校心の指導をとおして、挨拶はできる子の育成をめざす。
      - ・ 教員から率先して挨拶をするように取り組む。
      - ・ 校内ではよく挨拶をできいる。今後は地域での挨拶を充実させるために登校時の校門での挨拶100%をめざす。
  - (2) 基礎基本の定着をめざした指導を実践していく。
    - ① 基礎基本の定着状況を把握するための小テストを実施する。
    - ② 児童の考えを生かしながら学習を進め、指導者が適切な評価と支援（指導）を行う。
  - (3) 「聞く力」「話す力」が身につく授業を工夫していく。
    - ① 指導計画に沿った朝学習を実践する。
    - ② 児童が自分の考えを話せる場を月1回は設定する。
  - (4) 体力向上に向けての取り組みを工夫していく。
    - ① 体力テストは継続して実施する。
    - ② 走力と投力の向上をめざした取り組みは継続していく。課題として柔軟性の能力向上を中心にした運動を1日3分取り組む。
    - ③ 朝会、集会の集合と話を聞く姿勢がとともよいので、継続していけるようにする。
2. 経営方針の具現化をめざして
  - (1) 内、外に開かれた学校をめざす。
    - ① 学校公開の保護者参観90%以上をめざすために、授業内容を工夫する。
    - ② 図書ボランティアを活用した読み聞かせ指導や図書管理を推進する。練馬図書館との連携に向けて中学年を中心に推進する。
  - (2) 児童が話しやすい学年経営、学級経営に取り組む。
    - ① 児童一人一人の声に耳を傾けられる時間を確保する。そのために、1日1回は声をかける。（授業中あるいは休み時間）
    - ② 気になる児童がいたら、特別支援コーディネーターに必ず伝え、巡回相談員やスクールカウンセラー、心のふれあい相談員と連携を図れるようにする。
  - (4) いじめのない学校をめざす
    - ① 児童の訴えや話をしっかり聞き取り対応する。年2回のいじめ調査でいじめの可能性がある場合は早急に対応し小さな芽のうちに処理する。
    - ② 児童の言動には常に注意をはらい、児童の心の安定を図る。